

New Approach to Anti-Aging, Anti-Cancer, Anti-Alzheimer' s Disease & Autism, Anti-Infection & Anti-Obesity by using Various Methods of Increasing Normal Cell Telomere to Optimally High Value

Yoshiaki Omura, M.D., Sc.D., F.A.C.A., F.I.C.A.E., F.R.S.M.

1. President, Japan Bi-Digital O-Ring Test Medical Society
2. Director of Medical Research, Heart Disease Research Foundation, New York
3. Adjunct Prof. Dept. of Family & Community Medicine, New York Medical College
4. President, International College of Acupuncture & Electro-Therapeutics, New York
(TEL: 1 (212) 781-6262, FAX: 1 (212) 923-2279, e-mail: icaet@yahoo.com)

我々は、癌、アルツハイマー病、自閉症、疼痛、心臓・血管病等の難治性の疾患に対して、バイ・デジタルOーリングテスト^{1,5}を用いることにより非侵襲的に、安全に、短時間に診断することができ、又、安全で効果的な治療をする事が出来る。癌の細胞や組織では、Integrin $\alpha_5 \beta_1$ と Oncogene C-fos Ab-2 が5 ~ 10ng (BDORT Units) 以上に増え、Asbestos が0.15mg (BDORT Units) かそれ以上に増え、Hg, テロメア (TTAGGG) が非常に増え、8-OH-dG (DNA mutation に比例して増える) も増え、Folic Acid (DNA mutation を防ぐ作用があるが癌では非常に減少する) と Acetylcholine (癌で非常に減少する) が非常に減少しています。約 47 種類の癌, Mesothelioma を含めたありふれた悪性腫瘍の顕微鏡用のスライド等の Reference Control Substances (RCS) を用いて、診断・治療の評価を行う^{3,5,8,10}。

アルツハイマー病と自閉症の場合は脳内で水に不溶性の β -Amyloid (1-42) が正常値の 2 ng (BDORT Units) 以下が 7 ng (BDORT Units) 或いは、それ以上に増えて、Acetylcholine Chloride が非常に低下し、アルミニウム、8-OH-dG、Tau 蛋白、Asbestos, Chlamydia trachomatis, Borrelia burgdorferi, Mycobacterium TB, CMV, HHV6 等が異常に増えている事が多く、これ等の RCS を用いて、診断・治療の評価を行う。

難治性疼痛の場合は、Substance P, Herpes Simplex Virus type 1, HHV6, Chlamydia trachomatis, Bradykinin, Asbestos, TXB2, DHEA 等の RCS をチェックする。

我々は、Anti-Cancer Effect と Anti-Aging Effect を研究しているが、それを測定する一番重要なパラメーターとして正常組織のテロメア (TTAGGG) と Integrin $\alpha_5 \beta_1$ 或いは Oncogene C-fos Ab2 と Asbestos を測定している。我々の最近の研究の結果、アスベストは癌、癌組織に血液を supply している血管の vascular wall、Alzheimer's Disease, Chronic Pain, Cardiovascular Disease (特に血管の狭窄がある時や Failing heart で Asbestos が vascular wall に増えている)、Cataract、Morgellons Disease、その他の慢性の難治性の病気の重要な原因の 1 つになっている事がわかってきました⁶。すべてのアスベストに発癌作用がありますが、一番多く見つかるのは白色の Chrysotile asbestos で又、一番発癌作用の強いのは Tremolite Asbestos です。

我々の最近の研究の結果、アスベストが壁や天井に使われる物の中だけではなく、食物の中では卵の黄身に含まれているものも多く、又アーモンドナッツの中に入っているものも多く、アメリカのジンジャーの中

にアスベストが入ったものが多い。しかし日本の寿司屋で使っているジンジャーにアスベストの入った物はなかった。アメリカやヨーロッパのビン入りの水の中にアスベストが含まれている物が時々見られる。

上腕部の正常組織のテロメアをバイ・ディジタルOーリングテスト (BDORT) で調べて、5 ng (BDORT Units) 以上の時は、癌の可能性が高いので、すぐに癌のスクリーニングを行っている。癌組織で増える Integrin $\alpha_5 \beta_1$ 或いは Oncogene C-fos Ab2 が正常組織で 10ng 以上あればどこかに癌がある事が多い。この2つの値はほぼ同じ量が癌組織で見ついている。今まで、この2つの数値が 5ng で癌が見つかったのは、約 60 才のイタリア系のアメリカの女性で最近、胃に違和感を訴え、スタンダードの検査では何も異常が見つかっていなかったのに胃の悪性腫瘍の Signet Ring Cell Carcinoma of Stomach の初期がOーリングテストで見つかったが、生の Bitter Melon^{11,12} を 40 グラムずつ 4 時間毎に食べてもらって正常組織のテロメアを 550ng に増やした状態を 3 日間続けたところが癌の反応が完全になくなっている。Integrin $\alpha_5 \beta_1$ と Oncogene C-fos Ab2 各々の量が 10ng ~ 40ng (BDORT Units) の時には 3 種類の Mesothelioma (Epithelioid Mesothelioma, Sarcomatoid Mesothelioma and Mixed Type Mesothelioma) の一つである可能性が一番多く、アスベストも非常に高く 0.15 mg (BDORT Units) 以上になっている。Integrin $\alpha_5 \beta_1$ 或いは Oncogene C-fos Ab-2 が 40 ~ 50ng (BDORT Units) 以上の時には Mesothelioma 以外の癌、その他の腫瘍が多い。

正確な癌その他のある場所と形や大きさは 60ng (BDORT Units) の Integrin $\alpha_5 \beta_1$ を使って Laser Line を体表に Project して、X-Axis と Y-Axis Scanning により癌の中心部を局在し、正確な Outline は直接、体表にマップする^{3,5,8}。Asbestos が正常の人では 0.001mg (BDORT Units) 以下であるが、0.15mg (BDORT Units) 或はそれ以上のアスベストのある人は、癌その他の Malignant Tumor が存在する可能性が非常に高い。この様なすでに体内にたまったアスベストを簡単に安全に効果的に取り除く、いくつもの方法も、我々の研究の結果わかってきました。

更に 1999 年に著者が見つけた人間の声による癌の Bi-Digital O-Ring Test による診断法も最近実用化され、手以外に何も使わないで患者の声から O-Ring Test だけで癌があるかないかの Screening を 1 分間で出来るようになりました。更に RCS としていろいろな癌のスライドを使うと、声から癌の種類がわかり¹⁰、Cardiac Troponin I を使うと Myocardial damage の診断、又 Bacteria や Virus の RCS を使うと Infection の種類と degree of infection も推定出来るようになりました。

癌もしくは、前癌状態の時は、新しい Acupuncture Point, true ST.36 (Omura' s ST.36^{8,9} Point) に Press Needle を入れたままにして 200 回の Press · Release Procedure を 1 日 4 回刺激する、あるいは、ミラクル・ドラッグとして普及しているサプリメントの DHEA の最適量を BDORT で調べて、1 回だけ投与すると、正常の組織のテロメアの量を 525ng (BDORT Units) に増やす事が出来、同様に異常に増えている癌のテロメアの量を 0 近くまで低くして、癌細胞が活動できない状態にする Anti-Cancer Effect と Anti-Aging Effect (抗加齢効果) が半年 ~ 1 年の長期間持続する理想的な治療ができることは、前回までに述べてきました。しかし Smoking や Morphin とその delivertive や Non-steroidal Anti-Inflammatory Drug の多くに DHEA^{7,8} の効果を inhibit し、癌を促進させる事が多く、又、DHEA を適量の 2 倍以上の 25mg 飲んだり、我々の研究の結果わかった成人の平均的適量である 5 ~ 12.5mg でも毎日 1 回ずつ飲むと一週間くらいで中毒量になり反対の効果が出て、正常組織の Telomere が 1yg (=10²⁴g) 以下に減り、癌のテロメアを増やすという欠点があるので、癌の治療に用いる時には、少なくとも一週間か 2 週間毎に効果が Cancel されていない事を Telomere の量を測定する事により、100ng 以下に減少していない事を確認する必要がある。長距離で来れなかったり、動けない患者の Evaluation のため、左右の Mouth Writing, Hand Writing, Foot Writing に重要な目に見えない多くの医学情報が入っているので、患者が書き入れた Form を FAX しても

らって約1時間～1時間30分位で調べる事が出来ます。

最近、更に、効果的に安全にテロメアを増やすことができる治療法を開発し、ABC Treatment⁴と呼んでいることは昨年紹介しました。

Red Delicious や Fuji の様な、赤いリンゴ1個を食べると、正常のテロメアが1 yg (=10²⁴ g) 以下でも250～350ng (BDORT Unit) くらいに増える。しかし赤いリンゴ1個だけだと、正常のテロメアは必要な500ngに達しないので、リンゴを食べた後に、さらにバナナ1本を食べると、テロメアが更に250～350 ng (BDORT Unit) まで増え、テロメアはTotal 500～700ng 増え、その効果は4時間で半分近くに減ります。これに岡山の林原生物化学研究所で作ってもらっている Nutritional Supplement として特別に作ったシラントロ錠剤の適量を一緒に飲むと、正常組織のテロメアが更に25～50ng 増え、全体として効果が少し延長します。これは癌のない人では健康維持には非常に好ましいが、癌、その他の悪性腫瘍のある人では正常細胞のテロメアを500～600ng 以上にしないと、癌の細胞のテロメアをかなり下げる事が出来ますが、0 近くにする事が出来ません。そのため、リンゴとバナナで正常細胞のテロメアを600ng 以上にするには赤いリンゴを1個とバナナを1～1.5本食べる必要があります。癌細胞のテロメアが1yg (BDORT Units) 以下、Integrin $\alpha_5\beta_1$ も1yg (BDORT Units) 以下に減少して癌のパラメーターがゼロ近くなると、癌が活動できない状態になる。これをリンゴ (Apple)、バナナ (Banana)、シラントロ (Cilantro) の頭文字をとってABC Treatmentと呼んでいる。又、Cにはもう1つ衣類 (Clothes) が代表され、いくら良いものを十分取っても、着ているもの (Clothes) 特に下着がO-リングテストの強い (-) のものが体にタッチしていると正常細胞のテロメアが非常に減少し、癌細胞のテロメアが増えます。

リンゴやバナナはどれでも、良いというわけではなくて、青いリンゴや青いバナナは正常の Telomere を非常に減少させ、癌の Telomere を増やすので良くない。(特に Granny Smith リンゴが悪くて、或る患者のテロメアを1yg から500ng (BDORT units) 以上に増やしたのに青みがかかった Granny Smith リンゴ1つを手にしただけでテロメアが5ngに減少し治療前に見つかった悪性脳腫瘍の Glioblastoma の反応が又強く現れました。) その反面、煮た青いリンゴや青いバナナを食べると正常細胞のテロメアが増えます。アメリカ産のリンゴではよく熟した Braeburn が正常のテロメアを最も高く上げる。Braeburn が手にはいらぬ時は、2番目に効果的な Red Delicious や Fuji でも同じ様に、正常のテロメアを上昇させる。リンゴやバナナを食べられないような病人の場合は、リンゴとバナナと一緒にミキサーでジュースにして飲ませても、同じような効果がある。16世紀頃からイギリスの Wales の Pembrokeshire でよく知られていることわざに“1日1個のリンゴで医者いらず” (An apple a day keeps the doctor away) と言われており、リンゴの種類によっては、科学的根拠があると考えられる。

最近では ABC treatment に正常細胞のテロメアを少量でも大きく増える Bitter Melon (ニガウリ) ^{11,12} を併用する事により、リンゴもバナナも1ヶ以下で正常細胞のテロメアを簡単に500～600ngに増やすことができるようになりました。Bitter Melon は長寿で有名な沖縄ではゴーヤと云って毎日の食事の一部として煮たり、生で酢の物として食べられていますが、私の研究では平均50グラムの生のよく洗った Bitter Melon を食べると成人の正常組織のテロメアが500～600ngに増えることがわかってきました。

また、すべての薬剤には必ず各個人に特有の適量というものがあって、適量より多くやると、かえってマイナスの治療効果になることが多いので、optimal dose, optimal interval が非常に重要になる。リンゴ1個

とバナナ1～1.5本を1日4回食べても治療効果はあっても、効果の持続時間が比較的に短いため、食べ過ぎによる中毒効果は少なく、効果的で、安全な治療法と言える。しかし、人によっては1回にリンゴ1個とバナナを2本を1日に4～5回食べるのは大変でしたが Bitter Melon を併用する事により問題は解決しました。又、この Bitter Melon は冬には手に入れにくいですが、よい粉末を約 5.5g 飲むと正常細胞のテロメアが 500～600ng に増えます。但し、粉末の capsule として売られている物のほとんどは適量を飲んでも正常細胞のテロメアは最大 200～250ng しか増えず、それ以上飲むとテロメアが減少します。

バイ・デジタルO-リングテストを用いると、血液検査や西洋医学的な検査よりも迅速に、診断・治療ができる。また、有効な薬剤やその組み合わせ、また、その適量をチェックして、治療効果を推測することができる方法なので、その有用性は非常に高い。さらに Selective Drug Uptake Enhancement Method を用いて、病巣に、選択的に治療薬剤を到達させることができるので、副作用が少なく、安全で、効果的に治療ができるというメリットがある。

また、このようなリンゴ、バナナ、Bitter Melon、シラントロを用いて、効果的で安全に正常組織のテロメアを 500～600ng (BDORT Units) に上昇させ、4時間毎に同じ量を食べる事により、その効果を持続させ、癌のテロメアをゼロ近くに減少させることにより、又、寝ている時間の半分も、安全で簡単に Anti-Aging と Anti-Cancer 効果、Anti-Alzheimer's Disease effect, Anti-infection effect 及び Anti-obesity effects を得る事が出来ます。

O-リングテストで正常組織のテロメアを 500～600 ng (BDORT Units) に上昇させる事がわかって、O-リングテストでマイナスの衣類を身につけていると正常組織のテロメアが 1yg 以下に下がってしまう事が多いので、着ているもの、身につけているものも重要です。

それ以外にも健康や長生きの指標として用いている「テロメア」数値を上げる物の研究で、正常細胞のテロメアを増やす良い「水」や「食べ物」、「サプリメント」などを多く研究発見してきました。

私が世界の名水と呼ばれている所に行き行って集めた水で正常細胞のテロメアを 100cc 当たり 50ng 以上増やすものの有効成分を分析してもらい比較して林原生物化学研究所との共同研究の結果、100cc の水で正常組織のテロメアを 300ng 以上増やすことのできる「Miracle Water」を作る事にも成功しています。

研究論文はもちろん昨年出版した「O-リングテスト・スーパーヘルスレッシン」⁴にも挙げている赤いリンゴ・黄色いバナナや赤い水瓜などは日本では果物の代表です。赤いリンゴ1個（皮を取って食べることの出来る果実は 130-170g）を食べると正常細胞のテロメアは約 350ng～450ng (BDORT units) (赤いリンゴの果実は 100g で正常組織のテロメアが約 300ng 増え、52Kcal のエネルギーが得られます)、黄色いバナナ1本約 100g は 89Kcal の Energy があり、100g を食べると正常組織のテロメアが 200～300ng (BDORT units) 増え、赤い水瓜 100g は 59Kcal の Energy があり、正常組織のテロメアが 150～200ng (BDORT units) 増えます。

ニューヨークでは「Bitter Melon ビターメロン」^{11,12}(にがいメロン)と呼ばれ、沖縄では一般的に「ゴーヤ」として知られ、スープなどに入れて食べていますが、我々の実験では果実の部分を良く洗い、50グラムを

生のまま良く噛んで食べると正常細胞のテロメアが $1\mu\text{g}$ ($=10^{24}\text{g}$) と非常に低下していても 500ng 以上に増え、人によっては 600ng BDORT units まで上昇し、癌のテロメアが 0 近くまで下がり分裂できなくなるため、癌の活動を抑える事が出来るが、効果を持続させるためには少なくとも 4 時間ごとに同じ量を食べる必要があります。Bitter Melon 100 gram は 17Kcal の Energy がある。正常細胞のテロメアが 500ng 以上になると脳循環、心臓、膵臓、腎臓、皮膚、その他の血液循環が非常に改善されるだけでなく、大量の細菌 (Mycobacterium TB や Chlamydia Trachomatis)、ウイルス (ヘルペスや CMV; HHV6 等)、Fungus、水銀、鉛、アスベスト、アルミニウムその他の有害物質が尿中に大量排出されている事が、我々の最近の研究の結果わかってきました。又、同じ様な事が DHEA の適量 1 回飲んだ時、Astragalus^{12,13} の root extract の適量を 1 回飲んだ時及び (+) Solar Energy Stored Paper を当てた時にも起こる事がわかってきました。

そのためビターメロンを持続して毎日 4～5 回を食べていると Alzheimer 氏病・心臓の病気・糖尿病・高血圧、Obesity 等に非常に有効であることが我々の最近の研究の結果わかってきました。但し注意しなければならない事は体の表面に O-リングテスト (-) の強いものが触れていると正常細胞のテロメアはあまり上昇せず、したがってガン細胞のテロメアも下がりにません。これを防ぐには必ず O-リングテスト (+) の下着、靴下、眼鏡、腕時計、飲み物や食べ物が O-リングテスト (+) であることを確かめる必要があります。携帯電話から出ている強く高い周波数の電磁波が身体に放射されている時も同じ問題が起きるので電磁波を減少させる 15-17、日本でも ORT 生命科学研究所を通じて、手に入るようになった、アメリカで一番使われている Aulterra Neutralizer¹⁵⁻¹⁷ のようなものを貼り付けて Protect する必要があります。

Bitter Melon^{11,12} や DHEA^{7,8} 及び Astragalus^{13,14} で正常細胞のテロメアを理想的に 500～600ng に増えていたのが、 $1\mu\text{g}$ 以下に低下またはキャンセルさせる事の出来る、好ましくないものには、次のような物があります。タバコ、体を非常に低温度にさらされた時、コーヒー、Green Tea、ニンニク、金柑、ザクロ、ニラ、ネギ、玉ネギ、納豆、赤や緑のとうがらし、薬では高血圧剤特に Thiazid 系の薬、抗-コレステロール薬や抗-高脂質薬、一般によく使われているタイラノール、アスピリンのような Non-steroidal anti-inflammatory drugs (NSAID) 等があります。コーヒーの多くはティーカップで 1 杯飲むと正常組織のテロメアが $1\mu\text{g}$ くらいに低下し、癌のテロメアを増やし、もとにもどるのに 4 時間くらいかかります。但し、ポルトガルのデルタコーヒーは例外で正常組織のテロメアが増えます。Green Tea の中にもテロメアを低下させるものが多いが 1 時間で元にもどるものが多い。日本の寿司屋で使っている Green Tea の大部分は正常細胞のテロメアが増えるものが多い。

アストラガルス^{13,14} (学名: Astragalus membranaceus、英名: (Astragalus)、和名: 黄耆 (オオギ)、科名: マメ科、(アメリカで 1cap 200～400mg のものが一部のドラッグストアで販売されているが、日本では販売されていない。) の適量は、BDORT で調べると、一般の成人では 100mg～175mg が適量です。適量は 1 人ひとり異なるので、O-リングテストで調べる必要があります。Astragalus^{13,14} の根から抽出した約 70% of Polysaccharides を含んだ褐色の粉末を capsule の中に 200mg か 400mg 入れたものが一般にアメリカの Drug Store で売られています。毎日 200mg の 1 capsule を 1 回ずつ取るようにと書いている Solaray 社のものから、400mg の capsule を 1 回に 2 回毎日 3 回飲むようにと書いている Nature's Herbe 社のものが代表的なものです。Astragalus^{12,13} は中国では古くから免疫を刺激する薬草として癌、心臓病、関節炎、Fibromyalgia (線維筋痛症)、感染症によく使われていましたが、最近、エイズの患者にもよく使われてい

ます。適量をやると正常細胞のテロメアが 1yg 前後に極端に減少していても最高 650ng まで増え、癌細胞のテロメアが 0 近くに減少するため分裂出来にくくなり、又 1 回の適量を飲むとその効果がキャンセルされない限り、数カ月から 1 年位続き、適量でも毎日飲むと最初の日だけ最大の効果が出ますがその後、効果は減少し、人によっては体の害になるという事が初めて、私の研究の結果わかってきました。DHEA^{7,8} の適量を 1 回やると正常細胞のテロメアが 500 ~ 525ng に増え、効果はキャンセルする様なものを取らない限り、半年及び 1 年くらい続く事も我々の研究の結果、初めて 2004 年に解明されました。これからわかるように Astragalus^{13,14} の root extract の適量は、我々の研究の結果、正常のテロメアが最高 650ng (BDORT Units) 増えるので、DHEA^{7,8} の適量よりすぐれた効果が得られる可能性が強いと考えられる。製薬会社の推薦している量を一般の成人が飲むと 200mg の capsule を 1 日に 1 回飲んだ人は最初は好ましい結果が出ますが、その後、効果が減ります。400mg の capsule を 1 日に 2 ケ 1 日 3 回飲んだ人では初めから中毒量を飲むことになり、癌のある人は癌を促進させる事になり、大変な危険なことです。その反面、各個人がその人特有の適量の Astragalus^{13,14} や Boswellia Serrata を 1 回飲むと、正常細胞のテロメアを inhibit または cancel するようなものをとらない限り、Anti-Aging Effect, Anti-Alzheimer' s disease effect, Anti-infection effect, Anti-Diabetic effect, Anti-Hypertension effect, Anti-Cancer effect が得られ、更に栄養のバランスがとれた食事を腹 8 分目にとり、毎日運動をするのを続けると Anti-Obesity effect も得られる。

人間の姿勢はとても大事で健康にも大きく関係しているといわれています。腰の曲がった人よりもまっすぐに伸びている人、背中や首が前方や左右に曲がっている人よりも背筋がまっすぐに伸びているの方が見た目にも健康だと思われるでしょう。

以前に人間の姿勢が正常組織のテロメアや癌組織のテロメア数値に対してどのような影響があるのかということを実験で調べました。行った実験内容は、1. 姿勢を正した状態と 2. クビ、背中、腰を曲げた状態とで正常組織のテロメア数値にどの程度の影響が現れるのかを O-リングテストで調べました。1. 姿勢を正した状態は、腰・背中・首をまっすぐに伸ばし、正面を向いた状態。この状態で正常組織のテロメアを測定し 550ng である人に、2. 腰や背中を曲げた状態になってもらい正常組織のテロメア数値を測定すると、途端に 25ng や 10ng まで低下する人が多いという結果になりました。もちろん一概に断定することはできませんが、このバイ・デジタル O-リングテストの結果からも身体のまっすぐな良い姿勢が癌のある人や「健康で長生き」に対して重要であることはわかると思います。但し、膀胱頭部の癌のある人では体を前に曲げると背中や腹部の痛みが減るので、この場合に限り例外です。

References

1. 大村恵昭 「図説バイ・デジタルOーリングテストの実習」 [ISBN：4752950235] 医道の日本社、1986.
2. 大村恵昭 「未来医療Oーリングテスト」 [ISBN：9784752950448] 医道の日本社、1997.
3. 大村恵昭 「バイ・デジタルOーリングテストー難治性疾患の非侵襲的診断法と安全で効果的治療法および Anti-Aging と Anti-Cancer ー」 治療、南山堂 Vol.89, pp. 1501-1514, 2007.
4. 大村恵昭 「「Oーリングテスト」超健康レッスン」 [ISBN：978-4-391-62573-8]、主婦と生活社、2008.
5. Omura Y. "Bi-digital O-ring test molecular identification and localization method" and its application in imaging of internal organs and malignant tumors as well as identification and localization of neurotransmitters and micro-organisms--Part 1" Acupuncture and Electro-Therapeutics Research, The International Journal. Vol. 11 (2) , pp 65-100, 1986.
6. Omura Y. "Asbestos as a possible major cause of malignant lung tumors (including small cell carcinoma, adenocarcinoma & mesothelioma) , brain tumors (i.e. astrocytoma & glioblastoma multiforme) , many other malignant tumors, intractable pain including fibromyalgia, & some cardiovascular pathology: Safe & effective methods of reducing asbestos from normal & pathological areas." Acupuncture and Electro-Therapeutics Research, The International Journal. Vol. 31 (1-2) , pp 61-125, 2006.
7. Omura, Y. "Beneficial effects and side effects of DHEA: true anti-aging and age-promoting effects, as well as anti-cancer and cancer-promoting effects of DHEA evaluated from the effects on the normal and cancer cell telomeres and other parameters." Acupuncture and Electro-Therapeutics Research, The International Journal. Vol. 30 (3-4) , pp 219-261, 2005.
8. Omura, Y. "Excessive use of Steroid Hormone & beneficial effects of True St. 36 acupuncture on malignant brain tumors--part I: how to estimate non-invasively presence of excess dose of Steroid Hormone in patients, baseball players & other professional athletes from its toxic effects on heart & pancreas, as well as persistent or recurrent infection--part II." Acupuncture and Electro-Therapeutics Research, The International Journal. Vol. 30 (1-2) , pp. 57-102, 2005.
9. Omura, Y., Chen, Y., Lu, D.P., Shimotsuura, Y., Ohki, M. and Duvvi, H. "Anatomical relationship between traditional acupuncture point ST 36 and Omura's ST 36 (True ST 36) with their therapeutic effects: 1) inhibition of cancer cell division by markedly lowering cancer cell telomere while increasing normal cell telomere, 2) improving circulatory disturbances, with reduction of abnormal increase in high triglyceride, L-homocystein, CRP, or cardiac troponin I & T in blood by the stimulation of Omura's ST 36--Part 1." Acupuncture and Electro-Therapeutics Research, The International Journal. Vol. 32 (1-2) , pp31-70, 2007.
10. Omura Y. "Rapid screening and diagnosis of various cancers from human voice using Bi-Digital O-Ring Test resonance phenomenon between 2 identical substances i.e. between microscope slide of specific cancer tissue & cancer information in the sound of human voice, and detection of myocardial damage & infection from human voice." Acupuncture and Electro-Therapeutics Research, The

- International Journal. Vol. 32 (3-4) , pp235-269, 2007.
11. Ethan B, Gabardi S, Ulbricht C. "Bitter melon (*Momordica charantia*) : A review of efficacy and safety" American Journal of Health-System Pharmacy Vol. 60 (4) , pp 356-359, 2003.
 12. Chiampanichayakul S, Kataoka K, Arimochi H, Thumvijit S, Kuwahara T, Nakayama H, Vinitketkumnuen U and Ohnishi Y. " Inhibitory effects of bitter melon (*Momordica charantia* Linn.) on bacterial mutagenesis and aberrant crypt focus formation in the rat colon" The Journal of Medical Investigation Vol. 48, pp. 88-96, 2001.
 13. Gan XL, Hei ZQ, Huang HQ, Chen LX, Li SR, Cai J. "Effect of *Astragalus membranaceus* injection on the activity of the intestinal mucosal mast cells after hemorrhagic shock-reperfusion in rats." Chinese Medical Journal Vol. 119 (22) , pp. 1892-1898, 2006.
 14. Li J, Bao Y, Lam W, Li W, Lu F, Zhu X, Liu J, Wang H. "Immunoregulatory and anti-tumor effects of polysaccharopeptide and *Astragalus* polysaccharides on tumor-bearing mice." Immunopharmacology and Immunotoxicology Vol.30 (4) , pp. 771-782, 2008.
 15. Omura Y., Losco, M. " Electro-magnetic Fields in the Home Environment (Color TV, Computer Monitor, Microwave Oven, Cellular Phone, Etc.) as Potential Contributing Factors for the Introduction of Oncogen C-fos Ab1, Oncogen C-fos Ab2, Integrin $\alpha_5 \beta_1$ and development of Cancer, as well as Effects of Microwave on Amino Acid Composition of Food and Living Human Brain." Acupuncture and Electro-Therapeutics Research, The International Journal. Vol. 18 (1) , pp34-74, 1993.
 16. Syldona, M. "Reducing the In-Vitro Electromagnetic Field Effect of Cellular Phones on Human DNA and the Intensity of their Emitted Radiation." Acupuncture and Electro-Therapeutics Research, The International Journal. Vol.32 (1/2) , pp1-14, 2007.
 17. Omura, Y. "How to increase Extremely Reduced Normal Cell Telomere in the Patient who has Malignant Tumor with High Cancer Cell Telomere, and Decrease High Cancer Cell Telomere to Near Zero by Application of Electromagnetic Field Neutralizer, (-) Polarity of Battery, or South Pole of Magnet." Acupuncture and Electro-Therapeutics Research, The International Journal. Vol.33 (1/2) , pp78, 2008.
 18. 大村恵昭「バイ・デジタルO-リングテスト：患者自身の体に聞く、心身にやさしい検査法」 in 「お医者さんがすすめる代替療法」(帯津良一監修) [ISBN-13: 978-4054030763] 学習研究社、pp.204-207, 2006.
 19. 大村恵昭「O-リングテスト入門：長寿と若返りの生命革命」河出書房新社、2009.